

年次	米國	英國	獨逸	佛國
一八五〇年	五六三	二、三〇〇	三五〇	四〇五
一八九〇年	九、二〇二	七、九〇四	四、五八四	一、九三一
一九〇〇年	一三、七八九	八、九五九	八、三八一	二、六六九
一九一〇年	二七、三〇三	一〇、二一七	一四、五五九	三、九七四
一九一三年	三〇、九六六	一〇、二六〇	一九、〇〇四	二、二七四
一九一七年	三八、六二一	九、四二〇	一二、九三一	
一九一八年	三九、〇五四	九、〇七二	一一、五七〇	

本邦 海外に於ける主要製鐵國の情勢は大體以上の如し

而して我製鐵業を見るに朝野の熱心なる努力に依り異常なる發達を告げ過去二十年間に於て爲したる我國斯業の進歩は歐米先進國の夫れに比し甚だ顯著なるものあり唯製鐵事業は之が製品の製造に付き各特殊の事情を有するを以て各種製品が同一步調を以て發達し得ざるは勿論なりと雖も或種の製品は既に自給の域に達し又他のものも其獎勵如何に依つては自給し得べき見込なきに非ず即ち戦前の産銑額は僅かに二十三萬噸に過ぎざりしが大正七年には六十八萬三千八百六十噸、大正八年には七十八萬四千四百四十八噸に達し而も其製銑能力は約百二十萬噸と稱せらるゝの盛運を見るに至れり茲に大正元年以降に於ける我製銑高を示せば左の如し。(單位噸)

年次	製銑高	年次	製銑高
大正元年	二三七、七五五	同 五年	三八八、六九一
同 二年	二四〇、三六三	同 六年	四八九、二五二
同 三年	三〇〇、二二一	同 七年	六八三、八六〇
同 四年	三一七、七四八	同 八年	七八四、四四八

此外海外より輸入せる銑鐵數量は左の如し。(單位噸)

年次	輸入額	年次	輸入額
大正元年	二二五、七一六	大正五年	二二九、二九六
大正二年	二六二、六五四	大正六年	二二九、五四八
大正三年	一六七、〇六一	大正七年	二二一、五四五
大正四年	一六四、七七二	大正八年	二七八、六五二

之に依り我國に於て製造したる鋼鐵並に鋼材數量を擧ぐ

れば左の如し。(單位噸)

年次	鋼	鐵	鋼	材
大正六年	七七三、一三二		五一三、四四五	
大正七年	八一三、二一九		五三九、六三七	
大正八年	八三〇、八二三		五七七、一八五	

之に使用したる以外の銑鐵は歸物用として消費せられたるが如し。

斯くの如く長足の發達を爲せる我製鐵事業は一昨年未歐洲戦争の終局に因り一頓挫を來せしも其後我事業界が戦時中に優る好景氣を現出したるを以て斯業亦漸次恢復の兆ありしが本年三四月頃より金融梗塞に基因する一般財界の動搖と共に斯界も再び不振状態に陥り従つて本年の製鐵高は官鐵四十萬噸民間製鐵所三十萬噸合計約七十萬噸を超えざる可き状態となり又鋼鐵及鋼材の製造高も自然減少の歩調を辿るべき趨勢に在り而して我製鐵業が此後相當の成績を擧げて存續し得るや否やの問題に就ては茲に輕々敷判斷を下す能はざれども要するに开は一に海外品の日本に輸入したる價格が我製鐵業者の内地に於て販賣し得る値段との均衡如何に依つて定まる問題なり即ち現在米國に於ける銑鐵